

報告事項イ

第4回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について

第4回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について、別紙のとおり報告します。

平成23年5月19日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

第4回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要

教育環境課・文化財課
平成23年5月19日

第4回鳥取西高等学校整備のあり方検討会を下記のとおり開催した。

1 日時等

日 時：平成23年4月25日（月）午前10時～正午まで

場 所：県庁 議会棟 特別会議室

出席者：検討会委員10名

オブザーバー 文化庁文化財部記念物課 佐藤主任文化財調査官

2 概要

県外視察結果の概要を報告するとともに、第3回の意見を踏まえ、課題や問題点を認識するための整備方法を提示し、意見交換を行った。

3 主な意見等

〔文化庁主任文化財調査官〕

東日本大震災が発生し、その復興が問題になっている。また、全国で文化財をいかにまちづくりにつなげていくかが取り組まれている。教育委員会においても、まちづくりの観点から文化財の利活用について、取り組んでほしい。

文化庁は移転が大前提であると考えている。現地改築は認められないことを踏まえて検討していただかないと進まない。

史跡の中に学校があることで史跡の利活用が十分でない。できる限り早い段階での移転をお願いしている。しかし、早急な移転は不可能であるとのことなので当面は耐震改修が選択肢か、というのが文化庁の立場である。

〔学識経験者〕

整備方法の検討では、今までの意見、理念が十分に反映されず、議論の繰り返しになる。移転計画が必要なことは、既に確認されている。まちづくりの観点からは、学校が史跡の景観を作っているのも問題である。一方、早期の生徒の安全確保と教育環境改善のために学校と文化財が共生・共存していかなければならない。原則に戻り、様々な観点で意見をまとめ、こうあるべきだというものを議論しないといけない。

文化庁の意見がそうだからといって、県として現地改築しない方針でよいのか。現地改築が無理なことをあやふやにしたままではよくない。現地改築ができないのなら耐震改修でもいいが、市の整備計画や学校との調整は事務局でしてほしい。

現地改築も耐震改修も耐用年数はあまり変わらない。コストが変わらず、景観にも配慮されていれば現地改築でもいいのではないかと。

移転計画がないから困っている。原則は移転であるが、生徒の安全安心が大切なことは皆さん認識されている。現地改築は永遠に学校が残ると認識されるため認められないことを前提にしなければならない。耐震改修はつなぎのものとして、移転先は県教育委員会で真剣に考えてほしい。

【学校関係者】

大手登城路の整備で緊急車両の通行に問題が生じ、生徒の安心・安全の機能は低下する。通路を整備すると、第2グラウンドは幅30mとなりグラウンドとは言えなくなる。鳥取市の大手登城路の整備は、現地改築とセットで進められていたものである。耐震改修であれば大手登城路の整備は待つてほしい。

学校管理機能を第3校舎へ移すと、学校管理機能が低下してしまう。とりわけ危機管理上問題があり、この案では受け入れられない。

この委員会の役割は選択肢を提示するものであって、意見を一つにまとめなくてもよいのではないかと。現地改築も選択肢の一つであり、検討を止めるのは納得できない。大手登城路の整備をすると、鳥取城跡の文化財としての価値がどれだけ上がるのか分からない。活用が進む程度のことであれば、整備しなくてもよいのではないかと。

【鳥取市】

市の大手登城路の整備計画は学校を現地改築するとか耐震改修するとかの以前の問題である。大手登城路の整備を行うことで鳥取西高校が存続できないとの意見については、この検討会の議論を離れるものである。

4 検討会委員(11名)

学識経験者

池本 百代【鳥取女性中央会幹事、まちづくりレディース鳥取会長】

岡田 昭明【鳥取大学名誉教授、県文化財保護審議会会長】

坂出 徹【鳥取商工会議所専務理事】

錦織 勤【鳥取大学教授、県文化保護審議会部会長】(欠席)

濱田由紀子【鳥取県弁護士会副会長】

東樋口 護【鳥取環境大学副学長】

道上 正規【(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長】(座長)

学校関係者

青木 節也【鳥取西高等学校校長】

池内 勝彦【鳥取西高等学校PTA会長、同窓会副会長】

松下栄一郎【鳥取西高等学校同窓会副会長】

鳥取市

江本 克也【鳥取市教育委員会事務局次長】(林 市文化財課長代理出席)